

令和4年度

日章学園

鹿児島育英館高等学校

入学試験問題

国語

(時間 45 分)

(注意)

- 1 「始め」の合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。
- 2 問題は、7ページあります。解答用紙は1枚です。
- 3 「始め」の合図があったら、まず解答用紙に受験番号、中学校名、氏名を記入しなさい。
- 4 答えは、必ず解答用紙に記入しなさい。
- 5 印刷がはっきりしなくて読めないときは、だまって手をあげなさい。問題内容や答案作成上の質問は認めません。
- 6 「やめ」の合図があったら、すぐ筆記用具をおき、解答用紙だけを裏返しにして、机の上におきなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

聞き慣れない言葉が二つも並んでいると思うかもしれない。「人新世^{ひとしんせい}」とは、地層に人間の影響がはっきり記された地層年代で、コンクリートとか放射能、化学物質が増えた産業革命以降か第2次世界大戦後の時代を指す。

それは同時に、地球の限界を超えて人々が資源を使い尽くし、その悪影響が広がっていることを警告する。

「コモン」とは、人々が生きるために必要な共有財産を指すが、かつて「共有地の悲劇^①」というものがアメリカの生態学者ギャレット・ハーディンによって提唱された。牧草地や漁場など誰も使える共有地では、みんながこぞって自分の利益を追求しだすので資源がすぐに枯^ア渴^テしてしまう。だから、政府や特定の団体、個人に独占権を与えて管理する方が悲劇を回避できるというのだ。

しかし、反論もある。A 日本では古くから入会地という共同体が各地にあり、里山や漁場を共同管理していた。入会権が設定され、共同のシユウエキは平等に分配されていた。ここでは共有地の悲劇は起こっていない。

私はアフリカ各地でゴリラの調査をしながら地元の人たちと付き合ってきたが、地域が管理していた森林が国有地になったとたんに荒れ果てる。それまで森の利用を地元の人たちで話し合って決めていたのに、国の管理になると、どう転用されるかわからない。どこか海外の企業に売られてしまうかもしれないと不安になって、各自が利益追求に走るのだ。

実は日本でも国有化による悲劇は起きている。私は鹿児島県の屋久島で長い間サルの調査をしてきた。島の中央部の山岳地帯には樹齢千年を超える屋久杉を擁する原生林が広がる。民家や畑は海岸沿いであって、高峰や原始の森は昔から人々の敬いの対象であった。

B、明治の初めにここが国有林となり、訴訟を起こして敗北した地元には、人里近くの森の使用権のみが与えられることになった。国は営林署を設けて大規模な伐採を始め、広葉樹を全面皆伐してスギやヒノキを植林した。私が初めて屋久島を訪れた1970年代には、至る所、はげ山状態で、美しい照葉樹林は姿を消しつつあった。

それを憂^ウえた地元の有志が原生林の保護に乗り出し、やっと西部の森林は海岸部から2千メートル近い頂上部まで自然林が残されることになった。C、国は既に伐採した森で屋久杉の大きな根を掘り出してヘリコプターで島外に運び始めたのである。そのとき私たちは、金になるものは何でも持ち出そうとする国の態度に心底、腹を立てたものである。

近年、私有化のソクシン^エによってさらに危惧される事態が起こっている。水は日本人にとって無限ともいえるほど豊かな共有資源であった。しかし、それが今はペットボトルに詰められてお金を出して買うようになってきている。水道も私有化され、い

ずれ料金が上がることが懸念される。

太陽光パネルの設置は温室効果ガスの排出削減^オにとって有効な手段であるが、それを民間に委ねると森林を伐採して広大なパネル広場が出現する。森林は大気中の二酸化炭素を固定して大地を冷やす効果があるのに、これでは逆効果になりかねない。D、香川県の豊島では、パネルの設置で土地の利用権を手に入れた業者が、他の業者にそれを転売しようとしていると聞いた。

国も民間業者も利益を追求しようとするれば、自然資源を食い尽くし、地元の人々を置き去りにしかねないということを経銘じるべきだろう。

人新世という、もはや自然資源の利用が地球の限界を超え始めている時代に、人間だけの利益を追求し続けていいのだろうか。ゴリラがすむアフリカの熱帯雨林は多様な動植物たちのコモンズである。そこではアンモク^カのうち資源を利用する際に抑制がかかっているし、誰も絶滅に追いやられない。それを伐採して野生動物を乱獲した結果、未知のウイルスが飛び出してきてパンデミックが起こった。

③地域に眠っている在来知は、人々がたとえ利益を上げることを見つ先に考えたとしても、未来の世代が利用できるように持続可能な抑制をかけていた。私たちが見習うべき知恵がそこにある。

(注) パンデミック…世界的流行

(山極 寿一 2021年7月11日南日本新聞の文章より)

問一 傍線部ア～カまでのカタカナは漢字に、漢字は読みをひらがなに直しなさい。

問二 A Dの中に、それぞれ入る言葉を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかも イ すると ウ ところが エ たえば オ むしろ

問三 傍線部①「共有地の悲劇」とは何か。「利益」「資源」という言葉を使って四十字以内で答えなさい。

問四 傍線部②「それ」とは、何をさすか。本文から抜き出しなさい。

問五 傍線部③「地域に眠っている在来知」とは何か、具体的に答えなさい。

問六 本文の趣旨に合わないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然資源の利用が地球の限界を超えている時代において、人間だけの利益を追求することには問題がある。

イ 屋久島の原生林は地元有志の保護活動によって、自然林が残されることになり、すべての屋久杉が保存されることになった。

ウ アフリカでは、地域で管理していた森林が国有化されると、すぐに荒れ果ててしまうことになる。

エ 日本における入会地では、入会権が設定されたため、自分の利益だけを追求することはなかった。

オ 森林を伐採して太陽光パネルを設置すると、温室効果ガスの削減に逆効果である。

問七 本文に題をつけるとすれば、次のうちどれが適当ですか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 地球環境問題の現状

イ 共有地の悲劇

ウ 「人新世」のコモン

エ パンデミックの原因

オ 持続可能な社会の建設

二

次の〔文章Ⅰ〕、〔文章Ⅱ〕を読んで後の問いに答えなさい。

〔文章Ⅰ〕

① 「枕草子」の作者、() という女性は、こんにちの研究では、結婚して、一子をあげたのではないかと推定されています。しかし私は、彼女は石女いしづめではなかったか、あるいは子どもを産んでも、手許てもとから放してしまって、子供縁のうすい女ではなかったかと思っています。

なぜなら、彼女のエッセイ集「枕草子」の中にある、子供の描写はすばらしいからです。光かがやいているからです！イギリスの女流作家、キャサリン・マンスフィールドも病身で子供を持たなかった女でした。彼女の子供の描写もまた、じつに生彩を帯びています。

私は、現実に子供をもてば、こうまでその愛らしさを端的Aに描出できないのではないかとも思います。

「枕草子」の名高いくだり、「うつくしきもの(愛らしいもの)の幼い子供の可愛いらしさはどうでしょう。

「二つ三つばかりなるちこの、急ぎはて這はひくる道にいと小さき塵ちりのありけるを、目ざとにみつけて、いとaをかしげaなる指aにとらへて、大人などにみせたる、いとうつくし」

またおかつばあたまの童女が、目の上までかかった髪を、あたまをかしげてふり払っているうちに、とりついて寝入ってしまふその愛らしさ。

彼女は、赤ん坊や幼な子のやわらかな肌、愛らしい笑顔、声を、物ぐるおしいまで飽かず賞^めで、いつくしみます。

「こころときめきするもの。ちご遊ばする所の前、わたる」

「つれづれなぐさむもの。三つ四つのちこの、ものをかしういふ」

その片ことも、そのしぐさも、彼女にとってつきぬ愛執と、新鮮な好奇心をかきたてるものでした。

その愛情や執着、好奇心は、「ちご」たちが自分のものでないから、なのです。

自分で子供をもつ人は、決して、こういう第三者的な好奇心をもちますまい。清少納言の、愛情にあふれた観察は、いきいきしていればいるほど、ヒトの子供をみる女の目なのです。

「いみじう白く肥えたるちこの二つばかりなるが、二藍^{ふたあゐ}(染めの色)のうすものなど、衣長にてたすき結ひたるがはひ出でたるも、また、短きが袖がちなる着てありくも、みなうつくし」

「八つ、九つ、十ばかりなどの男児の、声は幼げにて書読みたる、いとうつくし」

棒切れや弓みたいなものを持って遊んでいる小さい男の子も、たいそう可愛い。

「車などどめて、いだし入れて見まほしくこそあれ」

その愛情には、自分が自由にできない、この愛らしいせつない生きものへの憧憬・羨望の影が、煙のように立ちこめています。

だから()は、子供のいやらしさ、にくらしさも鋭く指摘します。

「にくきもの。物聞かむと思ふほどに、泣くちご」

「見苦しきもの、例ならぬ人の前に、子負ひて出で来たる」

調子づくもの、母親に連れられて遊びに来、他人の部屋の大事なものをさがし出してとりちらかす子供。それを母親もまた制もしないで、だめよ、などとにこにこしているだけ。こんなのは親まで憎らしい。

憎さげなちごを、親からみると可愛いのか、片ことをまねしているのなど笑止^ばだ。

これということもない人が、子供をたくさん作っているのも、わずらわしい。

その直截^{ちやくせつ}な辛辣^{しんくわつ}さ。この口ぶりはもう、まるで男性のものです。

あの、母になった女達もつ、子供に対してとめどなくのめりこんでゆくようなあいまいさ、「これこそが我が骨の骨、肉

の肉なれ」というからみつくような一体感のもつ妖気は、彼女の文章にはありません。「枕草子」は颯爽たる、石女の文学だったのです。

(田辺 聖子『文車物語』より)

〔文章Ⅱ〕へ仙人になるために、鉄冠子に師事した杜子春は、鉄冠子の不在の間に何が起きても口を利かないように言われ、さまざまな魔性に耐えていた。

杜子春は我慢強く、どつと歯を食ひしばつた儘、一言も口を利きませんでした。

これにはさすがの鬼どもも、呆れ返つてしまったのでせう。もう一度夜のやうな空を飛んで、森羅殿の前へ帰つて来ると、さつきの通り杜子春を階の下に引き据ゑながら、御殿の上の閻魔大王に、

「この罪人はどうしても、ものを言ふ気色がございませぬ。」と、口を揃へて言上しました。

閻魔大王は眉をひそめて、暫く思案に暮れてゐましたが、やがて何か思ひついたと見えて、

「この男の父母は、畜生道に落ちてゐる筈だから、早速ここへ引き立てて来い。」と、一匹の鬼に云ひつけました。

鬼は忽ち風に乗つて、地獄の空へ舞ひ上りました。と思ふと、又星が流れるやうに、二匹の獣を駆り立てながら、さつと森羅殿の前へ下りて来ました。その獣を見た杜子春は、驚いたの驚かないのではありません。なぜかといへばそれは二匹とも、形は見すばらしい瘦せ馬でしたが、顔は夢にも忘れない、死んだ父母の通りでしたから。

「こら、その方は何のために、峨眉山の上に坐つてゐるか、まつすぐに白状しなければ、今度はその方の父母に痛い思ひをさせてやるぞ。」

杜子春はかう嚇されても、やはり返答をせずにゐました。

「この不孝者めが。その方は父母が苦しんでも、その方さへ都合が好ければ、好いと思つてゐるのだな。」

閻魔大王は森羅殿も崩れる程、凄じい声で喚きました。

「打て。鬼ども。その二匹の畜生を、肉も骨も打ち砕いてしまへ。」

鬼どもは一斉に「はつ」と答へながら、鉄の鞭をとつて立ち上ると、四方八方から二匹の馬を、未練未積なく打ちのめしました。鞭はりうりうと風を切つて、所嫌はず雨のやうに、馬の皮肉を打ち破るのです。馬は、——畜生になつた父母は、苦しうに身を悶もだえて、眼には血の涙を浮べた儘、見てもゐられない程嘶き立てました。

「どうだ。まだその方は白状しないか。」

閻魔大王は鬼どもに、暫く鞭の手をやめさせて、もう一度杜子春の答を促しました。もうその時には二匹の馬も、肉は裂け骨は砕けて、息も絶え絶えに階の前へ、倒れ伏してゐたのです。

杜子春は必死になつて、鉄冠子の言葉を思ひ出しながら、緊く眼をつぶつてゐました。するとその時彼の耳には、殆ど声とはいへない位、かすかな声が伝はつて来ました。

「心配をおしでない。私たちはどうなつても、お前さへ仕合せになれるのなら、それより結構なことはないのだからね。大王が何と仰つても、言ひたくないことは黙つて御出で。」

それは確に懐しい、母親の声に違ひありません。杜子春は思はず、眼をあきました。さうして馬の一匹が、力なく地上に倒れた儘、悲しさうに彼の顔へ、ぢつと眼をやつてゐるのを見ました。母親はこんな苦しみの中にも、息子の心を思ひやつて、鬼どもの鞭に打たれたことを、怨む気色さへも見せないのです。大金持になれば御世辞を言ひ、貧乏人になれば口も利かない世間の人たちに比べると、何といふ有難い志でせう。何といふ健気な決心でせう。杜子春は老人の戒めも忘れて、転ぶやうにその側へ走りよると、両手に半死の馬の頸を抱いて、はらはらと涙を落しながら、「お母さん。」と一声を叫びました。……

(芥川龍之介『杜子春』より)

問一 傍線部ア～ウを現代仮名遣いに直しなさい。

問二 傍線部a～cの古語の本文における意味として、適当なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a をかしげなる (ア) かわいそうな イ 小さな ウ かわいらしい エ おもしろい

b つれづれ (ア) ついでに イ なにもすることがない ウ 興味深い エ 突然

c 書 (ア) 手紙 イ 書道 ウ 本 エ 日記

問三 「文章I」の空欄に入る、「枕草子」の作者名を漢字で答えなさい。

問四 二重傍線部「見まほしくこそあれ」に使われている、古典文法の用法は何か答えなさい。

問五 波線部A～Cの現代語の本文における意味として、適当な意味は次のどれですか。それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 端的に (ア) はっきりと イ 初めから ウ 簡単に エ すみずみまで

B 笑止 (ア) はずかしい イ すばらしい ウ ばかばかしい エ おそろしい

C 辛辣 (ア) まじめ イ 手厳しい ウ 弱々しい エ 強引だ

問六 傍線部①「しかし私は、彼女は石女（うまずめ）ではなかったか、あるいは子どもを産んでも、手許（てもと）から放してしまっただけで、子供縁のうすい女ではなかったかと思っています。なぜなら、彼女のエッセイ集「枕草子」の中にある、子供の描写はすばらしいからです。光かがやいているからです！」とありますが、子供の描写がすばらしいことが、なぜ子供との縁が薄いといえるのか、その理由が分かる一文を抜き出し、最初の五字を答えなさい。（句読点や記号も一字と数える）

問七 傍線部②「ヒト」とありますが、カタカナで表記されている意味は何ですか。自分の考えを簡潔に答えなさい。

問八 傍線部③「早速ここへ引き立てて来い」と、大王が言ったのはなぜですか。本文に即して簡潔に答えなさい。

問九 傍線部④「悲しさうに彼の顔へ、ぢつと眼をやつてゐる」とありますが、この傍線部前後を含めた母親の様子から読み取れる心情と、「文章Ⅰ」のどの箇所が近い表現だと思いますか。「文章Ⅰ」から四十字以内で探し、最初の七字を答えなさい。（句読点や記号も一字と数える）

問十 「文章Ⅱ」は、芥川龍之介の「杜子春」という作品です。次のア～オの中から、芥川龍之介の作品ではないものを選び、記号で答えなさい。

- ア 鼻 イ 羅生門 ウ 河童 エ 走れメロス オ 地獄変

三

次の文章を読んで、傍線部の品詞名を後の語群からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

みなさんはあまりお気づきになっていないかもしれませんが、「貨幣①とお金②」に媒介された人間関係がそれです。貨幣が社会に浸透③しているということは、じつは人間の共同性がなくなつて、みんなバラバラ④になつてしまつたのではなく、目に見えない間接的な形で人間の共同的本質が世界規模に拡散したと考へた方が正確です。

（菅野 仁『友だち幻想』より）

- ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 名詞（代名詞） オ 副詞 カ 連体詞
キ 接続詞 ク 感動詞 ケ 助動詞 コ 助詞